1868年（明治元年）には12もあった村が，8年後には4つになり，1889年（明治22年）には1つにまとまって磐梯村になりました。

磐梯村の人口がふえて町になったのは，ずっと後の1960年（昭和35年）です。

(4) 工業化の基礎がつくられたころ

明治のはじめ，日本に伝わった蒸気機関車の鉄道は，人と物を運ぶめざましい手段でした。

会津にも早く鉄道をひきたい，磐梯村にも停車場（駅）をつくってもらいたいと人々は願いました。

1899年（明治32年），ようやく郡山と若松間の鉄道が開通し，磐梯村にも駅ができて，駅の名前は大寺駅と名づけられました。

当時の大寺駅

1912年（明治45年），大寺の近くを流れる日橋川の水を利用して，猪苗代第一発電所の工事がはじまりました。

このときは，大寺駅から工事現場まで線路をしいて，たくさんの材料を運びました。

1914年（大正3年），発電所が完成すると，この電力を利用する工場を建てる計画が進められました。